

0  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
21

タイトル番号：0046

書名：花紅葉都咄

1冊



Handwritten Japanese text in cursive style (sōsho). The text is arranged in vertical columns, starting from the right side of the page and moving left. The characters are fluid and connected, typical of a personal letter or a calligraphic note.

三



何某が嘗ては...の種...の大  
 中...の...  
 又...種...  
 且...  
 中...

昔...  
 如...  
 立...  
 以...  
 志...  
 其...

柳... 勿... 舟... 舟... 舟...  
舟... 舟... 舟... 舟... 舟...  
舟... 舟... 舟... 舟... 舟...  
舟... 舟... 舟... 舟... 舟...  
舟... 舟... 舟... 舟... 舟...  
舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

事... 事... 事... 事... 事...  
事... 事... 事... 事... 事...  
事... 事... 事... 事... 事...  
事... 事... 事... 事... 事...  
事... 事... 事... 事... 事...

焦燥主人  
焦燥主人  
焦燥主人

花紅葉都嘯

目録

一 燒失の次第 燒失時刻の考

一 聖主賢佐上小出のひ忽ら業舞世とつりく万民

業と樂む事

一 神社佛閣町教電救燒失れ救九の事書

一 火災小舟移りけ奇談の事

一 諸名家詩款連他の事

一 聖代有難と正律ありく徳民樂くと業

下出目録

一のひま

附録

花の都現を標

後お語

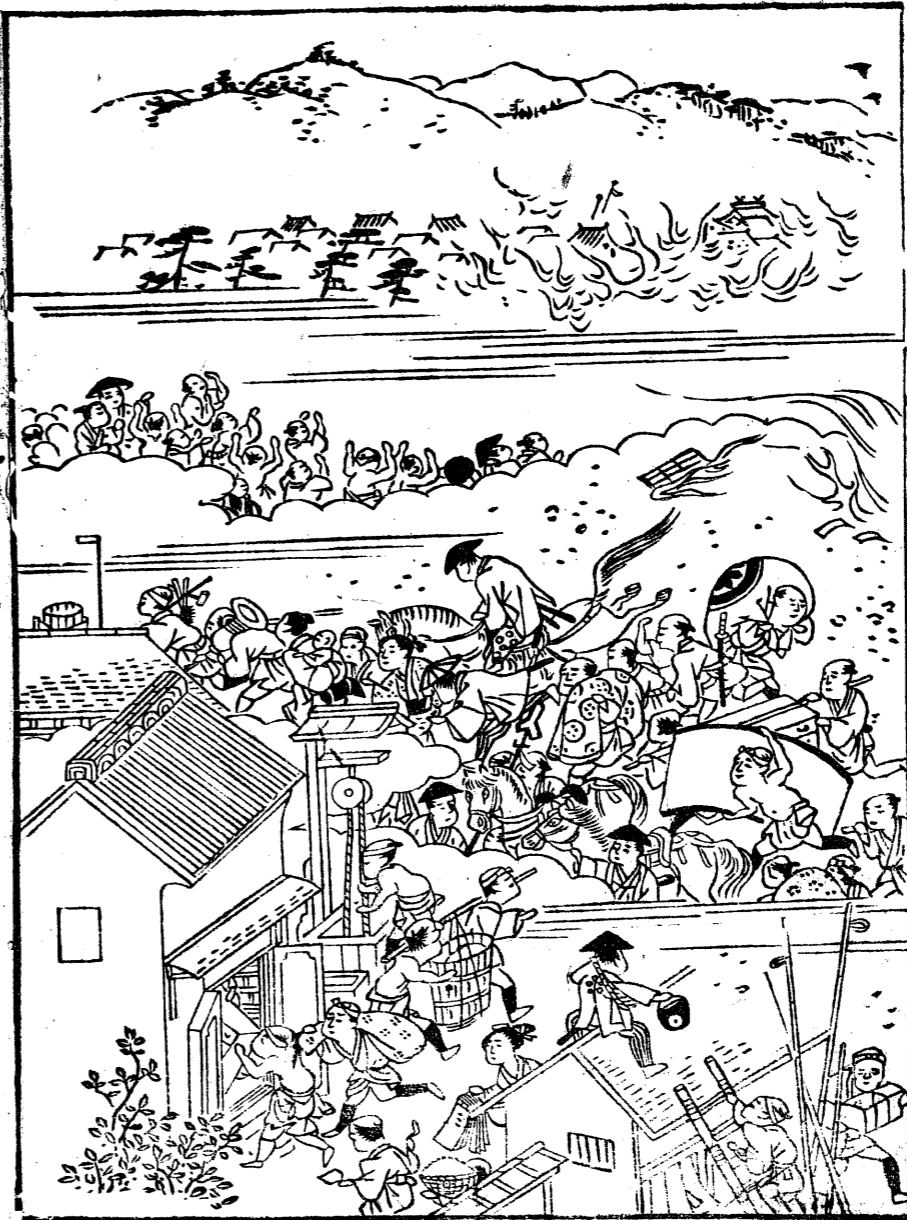
花紅葉都咄卷上

天小之哭ありとのけ時き恒定ありてぞ乃  
 時小くんは竟舜文武の沛世とそもそ哭ひを  
 先はりのわらびとやとれど平安法都を  
 四神お意万代不抜の帝基うてく山川は  
 秀秀驚人物の温和よそのはよりもまをりぬ況や  
 四時の政令享祭意とてめをまふく白馬乃  
 節今よりを小流の儀式とて行はるとも風  
 潤ひ雨順うてく時よ意ど万民を平れ化は

春の夜秋の月と春の  
 花の月と秋の月と  
 夏に加茂川の納涼小宴  
 杯は冬に市巻の雪に  
 東都が履衣  
 倒し四時とて  
 貴も徳も  
 外うく否極泰来の理  
 毎へは天さぶらう那  
 時うらふか今も  
 天明八年戊申の正月晦日  
 京都の大火の本朝累世  
 旧記も  
 月廿九日夜亥の刻  
 半公録



新田巻上



江より子世の方より風起せ世の刻小く〜  
 持小刻〜く富の下刻より富印ぐら小吹く後よ  
 人馬も倒ゆなふ〜り〜がけ曉卯の上刻後赤  
 園栗の辻子 安元年中の大火も都の異方なる富小後  
 新道の異れ角や〜たるる西替  
 店何来と〜やい急げ人家の漏壁の空やより出火  
 ことろんお〜も暴風志た〜ふ吹き〜く小石垣  
 町口糸下中松と南と美川町及び比門路の  
 乃瓜入糸橋通りと入六町半の乃瓜後一回小



焼と五条の大橋中後々々中筋本より北の方  
 二十万斗焼落は焼くろく欄干は焼く人馬  
 是より風辰己の方より吹替り飛火の吹着の  
 ごとく海中に噴火し一响呀と入る内寺町通  
 仏光寺下所永養寺永養寺南隣俗に蓮池寺との本堂の破風  
 一焼付それより津國寺津國寺の八日持寺  
 一掃り志のりの方より菽の下通は西へやけぬ  
 仏光寺一掃り因幡茶師常太長常太長の社社より  
 又北の方へ六角堂と名の沖登り北都々々

おろり焼く焼落り初めの時々々の万ふ千本  
 通寺寺の跡々々焼ぬけ南の方へ本國寺へ  
 掃り辰己の方へ五重大塔五重大塔より火のりは塔  
 南の方へ倒れおの西本願寺及び奥正寺の一  
 山麓も焼付ますとあせ内け塔北の方へ倒れ  
 くれいあ寺も焼もろく掃り一と入本國寺  
 及び五条六条の方へ都々風上るれども吹火小  
 燃えより吹廻して七条を東本願寺乃南境  
 ずく焼落り都々中京下京のりも煙火

卷々々々おほく顧るるのあこもるは東に獲寺  
 へ志むくくい防ご止めしりども後西小の方より  
 焼来くくよせだほほど終小焼矢と西本願寺を  
 大門毎敷樓のを焼矢しそ外急かし怪家  
 人も救多ありしとぞは時興正寺門跡の諸堂  
 再建ありし若清小登あくるまうしつ小危り  
 し高し主自ら拈摩しあふによろしく人と  
 命を限りと防ぐ内風己午の方より吹来り  
 く大雨志より小降来りし時火に之海とあり

